

北海道釧路北陽高等学校吹奏楽局第47回定期演奏会へようこそ！ご来場の皆様、本日は「北陽ハーモニー」を心ゆくまでお楽しみください。また、本演奏会の開催にあたり、共催いただきました釧路市教育委員会をはじめ、日頃より温かいご支援を賜っている関係各位の皆様に、心より御礼申し上げます。

「私たちにとって音楽とはどのような意味を持つのだろうか」——この機会に、その問いを改めて心に置いてみたいと思います。

アフリカ中部の熱帯雨林に暮らす、ある民族の社会では、「音楽は言語よりも大事な意味を持つ」とされ、人々は生活のさまざまな場面で歌い、太鼓を打ち、木々や水面を叩き、音によって互いの意思や感情を伝え合います。そこでは音楽が、人と人をつなぐ大切な手段として、暮らしの中に息づいています。

場面を本校に移します。本校の生徒ホールには一台のピアノが置かれています。このピアノは飾り物ではなく、誰もが自由に奏でることができます。休み時間や放課後には、その音色に引き寄せられるように、生徒が集い、耳を傾け、音楽をバックに会話を交わす——私が大好きな学校の光景の一つです。

本来、人と人は互いに愛し合い、支え合う存在であるべきであるにもかかわらず、現代においては、その希薄化が指摘されているところです。音楽には、メロディーやリズムを共有することで人と人を結び、私たちに「共に生きる喜び」を思い出させてくれる、そのような力があるのではないのでしょうか。

私の大好きな釧路北陽高等学校吹奏楽局の演奏には、人の心を結ぶ力があります。本日ここに集った皆様が、「北陽ハーモニー」によって、温かく緩やかに結ばれ、幸せな気持ちを共有できることを願っております。